卒業論文

「女性おひとりさま」社会実現の課題

――ドラマ・映画の作品分析より――

2018 年度入学
九州大学　文学部　人文学部　人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野
1LT18308Y　長岡未優
2022 年 1 月　提出

要約

日本では女性のライフコースが多様化している。かつては、女性は結婚をして主婦として生活を送ることが一般的であった。しかし、近年では、未婚化や晩婚化の進行や、結婚してもその後離婚するケースも増加しており、女性のおひとりさまが増えている。このように、現在は、女性は必ず結婚をしなければならないというわけではなく、結婚する、結婚しないの選択を自由に取ることができる時代になっている。そのような中で、「女性おひとりさま」社会を実現するうえでの課題が何であるのかについて、ドラマや映画の考察から明らかにすることが本論文の目的である。

まず、筒井淳也(2016)の研究から、日本の家族の在り方について、「家制度」が古くから一般的であり、明治時代になると、「家父長制」が民法によって定められており、庶民にまで広く浸透していたことが示された。「家父長制」もまた、家長である男性に強い権限があり、女性は「家」に入って、夫やその両親の支配下にあり、堅苦しい家制度に置かれていた。「家制度」は、資本主義の発達により揺らぎ始めたものの、依然として性別分業や男性支配を伴っていたことも確認されている。その後、近代化に伴う「女性の非労働化」が進み、夫は外に出て働き、妻は家庭で家事や育児に専念するといった「近代家族」時代が到来し、現在は、産業構造の変化や男性の雇用不安定化により、「共働き家族」の社会へ移行しているものの、経済格差や家庭の職場化、ジェンダー家族の問題といった課題が存在していることも指摘された。

また、落合(2021)の研究によると、戦後は女性の社会進出が進んだとされているが、実際は、女性は家庭に入る「主婦化」が進んだと指摘している。この背景には、高度経済成長に伴う産業構造の変化があり、サラリーマンの家庭が増加し、家庭に専念する女性が増え、「女性は主婦であるべき」という性役割が大衆化したとしている。また、戦後において、女性は24 歳前後で結婚し、専業主婦になり、2、3 人の子どもを産むといった「再生産平等主義」が一般的であり、これが典型的な女性のライフコースであったと指摘している。落合は、「女性の主婦化」、「再生産平等主義」に加え、人口学的移行期世代が担い手であったことを「家族の戦後体制」の特徴だとしている。「家族の戦後体制」後、「ウーマンリブ」といった社会運動がおこり、それまでの家族や女性の性役割に対し、疑問が投げかけられるようになった。その後、1980 年代に入ると、団塊の世代における女性の主婦離れが顕著になり、それまで専業主婦として家庭にこもっていた女性が外へと乗り出したことも明らかになっている。また、団塊の世代より若い世代では、30 歳近くまで結婚しない女性なども増加し、女性の平均初婚年齢も上昇し始め、主婦にはならないというライフコースが出てきたことも指摘されている。

一方、平成 27 年の「国勢調査」によると、日本の一般世帯のうち、単独世帯は約 1842 万世帯で、一般世帯の 3 割近くを占めている。2010 年と比較すると、単独世帯は 9.7%も増加

しており、一般世帯に占める割合も 2.2%増加しており、単独世帯の増加が顕著になっている。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、2030 年には単独世帯が 2025 万世帯となり、総人口の約 17%を占めるとされており、「おひとりさま」の生活が身近なものになることが示されている。また、単独世帯の増加の背景には、未婚化の進行、晩婚化の進行、離婚率の増加が考えられる。内閣府の「平成 30 年版少子化社会対策白書」によると、2015 年の女性の未婚率をみると、30~34 歳では 3 人に 1 人が、35~39 歳では 4 人に 1 人が未婚となっている。また、内閣府の「令和元年版少子化社会対策白書」によると、2017 年における妻の平均初婚年齢は 29.4 歳となっており、1985 年と比較し上昇している。離婚率についても増加しており、「女性おひとりさま」が一般的になりつつあることがうかがえた。

「女性おひとりさま社会」について、上野(2011)は、住居の確保、友人ネットワーク、老後の資金が必要であるとしている。住居の確保は、おひとりさまの老後にとって必要最低限の生活基盤であるとしており、条件が合えば、在宅支援の地域介護制度を自宅で受けることも可能だとしている。友人ネットワークについては、メンテナンスをすることでいざというときに助けを求めることができるとしている。老後の資金については、年金とは別の、少しの収入があることにより、老後の安心した暮らしに備えることが可能だとしている。さらに、上野(2019)は、「おひとりさま」の生活を送るうえで、家族を前提とした介護を受けることが厳しくなっており、「在宅ひとり死」の重要性が高まっているとしている。

これらの先行研究、データを踏まえ、『僕の姉ちゃん』、『逃げるは恥だが役に立つ』、『RBG 最強の 85 歳』の作品分析を行い、「女性おひとりさま」の特徴や、「女性おひとりさま社会実現に向けての課題について考察を行った。その結果、作品で描かれていた「女性おひとりさま」いは、安定した雇用とそれに伴う金銭的余裕が共通していることがみられた。また、『RBG　最強の 85 歳では』、アメリカ社会で、女性が男性よりも社会的に低い立場にあり、それらの問題にルースが取り組み、女性の地位や権利向上に努め、女性たちが活躍する社会へと大きな貢献を果たした。つまり、女性が男性と同様に安定した雇用に就くことが「女性おひとりさま」社会に求められているのではないだろうか。

厚生労働省の「令和元年版働く女性の実情」によると、2019 年における女性の雇用者数は 2720 万人となっており、2011 年より増加しているものの、男性の雇用者数と比較すると、男性の雇用者数の半数近くしかいないことが明らかになっている。また、契約期別では、雇用されるうえで期間の定めがある「有期の契約」が女性では約 850 万人と、男性よりも 200 万人ほど多いことや、女性の非正規職員が正規職員よりも多く、その数も前年と比較し増加していること、女性雇用者数に占める非正規職員が 56%と半数を上回っていることが示されており、女性が不安定な雇用状況に置かれていることが明らかとなった。

「女性おひとりさま」が一般的になりつつある中、この不安定な雇用は、一人暮らしの女性の貧困に影響していると考えられ、この女性の不安定な雇用を改善し、女性非正規雇用労働者の減少を図ることが、「女性おひとりさま」社会実現に向けての課題であると考える。

今後の課題としては、年代別のおひとりさま女性への質的調査を行い、彼女たちが抱えている問題や不安聞き取り、それらに共通している点、または異なっている点について明らかにし、「女性おひとりさま」社会の実現にむけた新たな視点を踏まえた研究を行うことが挙げられる。

目次

1　はじめに.....1
1.1　問題意識.....1
1.2　本研究の構成.....1
1.3　「女性おひとりさま」の定義.....2
2　日本の家制度.....3
2.1　日本の家族の在り方.....3
2.2.1　「家制度」と「家父長制」.....3
2.2.2　「家制度」からの解放.....3
2.3　近代家族の誕生.....4
2.4.1　「個人が家族から自立した経済基盤をもつ」社会への阻害.....5
2.4.2　近代家族から共働き家族社会への移行.....6
2.5　小まとめ.....7
3　女性のライフコースの変化.....8
3.1　本章の概要.....8
3.2.1　主婦とは何か.....8
3.2.2　戦後の「主婦化」.....9
3.2.3　戦後の典型的な女性のライフコース.....10
3.3　「家族の戦後体制」.....12
3.4　女性の社会運動と主婦離れ.....12
3.5　個人を単位とする社会.....13
4　「おひとりさま」の増加.....15
4.1　日本の世帯状況とその特徴.....15
4.2.1　単独世帯の増加の背景.....15
4.2.2　未婚化の進行.....15
4.2.3　晩婚化の進行.....16
4.2.4　離婚の増加.....17
5　上野千鶴子による「女性おひとりさま」の条件.....18
5.1　「女性おひとりさま」社会の背景.....18
5.2.1　住居の確保.....18
5.2.2　友人ネットワーク.....19
5.2.3　老後の資金.....20
5.3　介護と「在宅ひとり死」.....20
6　ドラマ・映画からみる「女性おひとりさま」.....23
6.1　本章の概要.....23

6.2.1　『僕の姉ちゃん』の概要.....23
6.2.2 『僕の姉ちゃん』にみる「女性おひとりさま」の特徴.....23
6.3.1 『逃げるは恥だが役に立つ』の概要.....24
6.3.2 『逃げるは恥だが役に立つ』にみる「女性おひとりさま」.....25
6.4　両作品における「女性おひとりさま」の共通点.....26
6.5.1　『RBG　最強の 85 歳』の概要.....26
6.5.2　『RBG　最強の 85 歳』からみるアメリカ社会での女性.....27
7 「女性おひとりさま」社会の実現にむけて.....29
7.1 「女性おひとりさま」社会に求められるもの.....29
7.2.1　女性の労働力人口.....30
7.2.2　女性の非労働力人口.....30
7.2.3　女性就業者及び失業者.....31
7.2.4　女性雇用者数とその特徴.....33
7.2.5　女性の雇用形態と非正規労働者.....34
7.2.6 「女性おひとりさま」社会の実現にむけての課題.....35
7.3　本研究の限界と今後の課題.....36
［文献］.....37
謝辞.....38